

所有から使役・経験へ——動詞 have の意味の拡がり

英語の動詞の中で、have は be と並んで最も基本的な動詞です。have は「・・・を持っている」という〈所有〉の意味が基本です：

(1) I have several books on world history. (私は世界史の本を何冊か持っています)

(2) She has a grand piano in her house. (彼女は家にグランドピアノがある)

(1)は「何冊かの世界史の本」を「現在携帯して持っている」か、あるいは「自分の家の書棚等に蔵書として持っている」ということであり、(2)は「グランドピアノ」を「固定された位置に置かれている家財道具として持っている」ということです。一口に〈所有〉と言ってもその実際のあり方はさまざまですが、この have の意味は一般に次のように述べることができます (cf. 田中・川出 1989; 2010)：

(3) S+have+O の意味 = S の所有空間の中に O が存在する

「S の所有空間」とは、「S が(具体的・抽象的な意味で)関わっている空間・領域」のことです。上の(1)(2)の場合は、それぞれ「S と関係づけられる物理的な空間」がそれに該当しますが、次のような場合はそれとは違ったものになります：

(4) I have some shares in the company. (私はその会社の株を持っている)

(5) I have an aunt who lives in New York. (私はニューヨークに叔母がいます)

(6) He has gray hair. (彼の髪は白髪まじりだ)

これらの場合、「S の所有空間」とはそれぞれ「S の財産の集合」「S の親族関係」「S 自身(S の身体)」によって構成されるものということになり、「空間の構成内容」が(1)(2)の場合とは異なります。

ところで、「S の所有空間の中に O が存在する」という場合、S と O との間にはしばしば非対等な関係が発生します。ここで言う「非対等な関係」とは、「一方が他方を支配／コントロール(control)する関係」のことです。その際、多くの場合空間の設定基準である S が「コントロール主体」となり、空間に包含される O が「コントロール対象」になります。次の例を参照：

(7) She has a cottage at the beach. (彼女は浜辺に小さな家を持っている)

(8) I have a dog and two cats. (私は犬を一匹、猫を二匹飼っている)

(7)(8)において、「彼女」「私」(=S) はそれぞれ「浜辺の家」「その犬と猫」(=O) をコントロールしている (すなわち、S はその気になれば O をどのようににも扱うことができる(たとえば処分したりすることもできる))わけですから。このような非対等なコントロール関係は次の場合にも見られます：

(9) John had a walk around the town. (ジョンはその町を歩き回った) (Wierzbicka 1988: 298)

この場合、「ジョン」(=S) は「その町を歩き回ること」(=O) という活動をコントロールしていて、自分の自由意思によっていつでも気ままに始めて気ままにやめることができることを表します。これに対して、(9)を少し変えて(10)のようにすると、表現としての容認性が低くなります：

(10) ?John had a walk to the post office to post a letter. (Wierzbicka 1988: 298)

この場合は「郵便局に着いて手紙を出した時点」で「郵便局に手紙を出しに行くこと」は終わりになり、S と O の間に(9)のようなコントロール関係を認定することができないと見なされます。

このように have は非対等なコントロール関係を表しうることから、「人に何かをさせる」という「使役動詞」として用いられることがよくあります。次例参照：

(11) He had his secretary copy the document. (彼は秘書にその文書のコピーをとらせた)

(12) He had the barber cut his hair short. (彼は散髪屋に行って髪を短く切ってもらった) (MWALED)

これらは「S+have+O+Inf.」の構文で用いられています。これらの場合、「S が O に頼めば、O は Inf. という行為をやってくれる」という (S から O への) コントロール関係の存在を前提としています。(11)の場合は「上司(=S)」から「部下(=O)」、(12)の場合は「客(=S)」から「業者(=O)」という形で、そのような関係が形成されています。

have の表す非対等なコントロール関係において、上では S が「コントロール主体」である場合を見てきましたが、ときには S が「コントロール対象」になる場合もあります。次例を参照：

(13) My uncle has diabetes. (私の叔父は糖尿病を患っている) (MWALED)

(14) She had a heart attack at the age of 50. (彼女は 50 歳のとき心臓発作を起こした) (MWALED)

(15) She's had many strange things happen to her recently. (彼女は最近不思議なことがよく起こっている) (MWALED)

これらの場合、S は O (+Inf.) (による影響) を被る対象、すなわち O (+Inf.) によるコントロールの対象ということになります。換言すれば、これらの S は O (+Inf.) を「受身的に経験する」ものであり、これらに用いられている have は「経験を表す have」と呼ばれることがあります。

参考文献 Anna Wierzbicka, *The Semantics of Grammar*. (John Benjamins, 1988)

田中茂範・川出才紀『動詞がわかれば英語がわかる——基本動詞の意味の世界』(ジャパントイムズ、1989年)

田中茂範・川出才紀『動詞がわかれば英語がわかる 改訂新版』(ジャパントイムズ、2010年)